【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第２部門第５区分
【発行日】令和3年5月6日(2021.5.6)

【公開番号】特開2020-26175(P2020-26175A)
【公開日】令和2年2月20日(2020.2.20)
【年通号数】公開・登録公報2020-007
【出願番号】特願2018-151140(P2018-151140)
【国際特許分類】
Ｂ６０Ｋ　6/34　(2007.10)
Ｂ６０Ｗ　10/08　(2006.01)
Ｂ６０Ｗ　20/00　(2016.01)
Ｂ６０Ｌ　3/00　(2019.01)
Ｂ６０Ｌ　15/20　(2006.01)
Ｂ６０Ｌ　9/18　(2006.01)
Ｂ６０Ｌ　50/15　(2019.01)
Ｅ０２Ｆ　9/20　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｂ６０Ｋ　6/34
Ｂ６０Ｗ　10/08　９００
Ｂ６０Ｗ　20/00　９００
Ｂ６０Ｌ　3/00　Ｊ
Ｂ６０Ｌ　15/20　Ｊ
Ｂ６０Ｌ　9/18　Ｊ
Ｂ６０Ｌ　11/12
Ｅ０２Ｆ　9/20　Ｚ

【手続補正書】
【提出日】令和3年3月22日(2021.3.22)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００６２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００６２】
上記実施の形態では、トルク指令ゲイン生成部１６ｂは、DCバス１３０の電圧が第２の閾値Ｖ２より低下した際、走行電動モータ９のトルク指令がゼロになるようトルク指令ゲインの特性を設定したが、走行電動モータ９のトルク指令を厳密にゼロとする必要は無い。例えば、図１０に示すように、トルク指令ゲイン生成部１６ｂ１において、DCバス１３０の電圧Vdcが第２の閾値Ｖ２を超えて低下するときに、ホイールローダが平地にて停止状態を維持する大きさの範囲内の値（平地にて動き出さない程度の小さな値）になるようにトルク指令ゲインの特性を設定してもよい。これによりDCバス電圧低下防止装置１６は、DCバス１３０の電圧が第１の閾値Ｖ１よりも低い第２の閾値Ｖ２を超えて低下した場合に、走行電動モータ９の出力トルクをホイールショベル（作業車両）が平地にて停止状態を維持する大きさの範囲内の値に減少させるよう制御する。このように制御した場合でも、走行電動モータ９の出力トルクはゼロに近い小さな値になるため、DCバス１３０の電圧Vdcを速やかに復帰させることができる。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００６９

【補正方法】変更
【補正の内容】
【００６９】
これによりDCバス電圧低下防止装置１６は、DCバス電圧Vdcが第１の閾値Ｖ１まで低下した場合に、DCバス電圧Vdcの変化率が予め設定した値以下であるときは、走行電動モータ９の出力トルクをDCバス電圧Vdcの低下量に応じて減少させ、DCバス電圧Vdcの変化率が予め設定した値よりも大きい場合は、走行電動モータ９の出力トルクを、ゼロ又はホイールローダが平地にて停止状態を維持する大きさの範囲内の値に減少させる。これによりDCバス１３０の電圧Vdcが低下するとき、その変化の度合いが小さい（変化率が予め設定した値以下である）ときは、第１の実施の形態のように、走行電動モータ９の出力トルクをDCバス１３０の電圧の低下量に応じて減少させ、走行電動モータ９の出力トルクの低減を滑らかに行うことができる。また、DCバス１３０の電圧Vdcの変化の度合いが大きい（予め設定した値よりも変化率が大きい）ときは、走行電動モータの出力トルクを応答よく低減し、DCバス１３０の電圧Vdcを速やかに復帰させることができる。